



真夜中の経営会議

今日は、『真夜中の経営会議』というテーマで思ったままに書き綴ってみたと思います。

皆さんは、日頃、自分自身や仕事を振り返る時間をどこかで取られていますか？

日々の忙しい仕事や生活に追われていると、つい立ち止まって考える時間を忘れがちだと思います。

私は、いつも1時～2時に起きて、だいたい3時ぐらいから、毎朝13キロを走るのを1つのルーティンにしています。

走る目的は、健康維持はもちろんのこと、気分転換などもあったりするので、一番は自分自身としっかり向き合い、振り返る時間になっていることだと思います。

どんな人でも、仕事でも、プライベートでも何かしたら毎日イベントがあると思います。

そうしたイベントに対して、自分なりに判断したり、判断するための頭の整理を、毎朝のランニングの時間にしているように思います。

つまり、弊社にとってはまさに「真夜中の経営会議」にあたるかと、先日走りながら思いました。

つまり無心に走ってはいるものの、頭の中では考えているというか、グルグル意見を交換したり、回しあっているように思います。

そうこうしているうちに、ふと頭の中で整理され、とても良いアイデアが浮かび、自分なりに何をすればいいのか決まる瞬間があります。

別に走ることをおススメするというのではなく、1日の中でどこか、自分と対話するとか、振り返り、頭のを整理する時間を持つことが大事だと思います。

そうすることで、毎日くたくたなく、全力で何事にも打ち込める覚悟ができるようになるのではないのでしょうか。

Next Seminar

2 / FRI
28



Feb, 28, 2025

ジョブクラフティング（自分活躍推進）研修体験セミナー

自分の強みや価値観を再認識し、周囲の期待を理解することで、仕事にやりがいを見出し、モチベーションを高めることができるジョブクラフティング研修（自分活躍推進）体験セミナーです。

詳細はこちらです。

<https://entrelabo.co.jp/public>

3 / FRI
14



Mar, 14, 2025

GRAMA DE&I ワークショップ体験セミナー

本セミナーでは、ボードゲーム「GRAMA」を用いた、知識的な理解と体験的な理解の両方の側面から DE&I 理解にアプローチする体験セミナーとなっております。

詳細はこちらです。

<https://entrelabo.co.jp/public>



私も、昔というか、若いころは、無我夢中で毎日进行し、余裕のない日々を送っていたように思います。走ることも、早く走ることを目的にしている、足を痛めたことも何度かあります。歳を重ねてきてわかったような部分もありますが、1日1分でも、3分でも何か自分と対話してみてください。

本との出会い

皆さん

おはようございます。

本日で紹介させて頂くのは、最近読んだ本ではないのですが、自分がこれまで読んだ本の中でもおススメの1冊をご紹介しますと思います。

本のタイトルは『中谷巖の「プロになるならこれをやれ!」』（中谷巖（著）／日本経済新聞1200円＋税）です。

今から20年委譲前に発売された本なのですが、いまなお本に書かれていることは色あせない本質的な話がでていると思います。自分も何度も読み直しながら、その都度、様々な考え・刺激をもらっております。

著者の中谷巖氏は、マクロ経済学の専門家で、大学時代に中谷巖さんのマクロ経済学に関する本を読んだ方も多いのではないかと思います。もともと一橋大学の教授で、一橋大学から多摩大学の教授・学長に就任。ソニーをはじめ、アスクルやスカパーなどの取締役もつとめ、三和総合研究所（現・三菱UFJリサーチ & コンサルティング）の理事長をしている時もある大学教授でありながら、企業人としての側面も持つ方です。

中谷さんの本は好きで、この本以外にも何冊か読んでおりますが、特におススメなのが今回ご紹介する本です。

内容は、タイトルにもある通り、それぞれの分野でプロフェッショナルと呼ばれる人材になるためのポイントが書かれております。

中谷さんはもちろん、マクロ経済学という学者として一流を極めた方であり、その自分の体験はもちろん、スポーツ界やビジネス界など幅広い交流や事例をもとにわかりやすく書かれております。

一流と呼ばれるプロと呼ばれる方々に共通する5つのポイントや、一流のプロになるための8つの秘訣が書かれております。

全体を通して感じることは、一流と呼ばれるプロになるためには、1万時間の壁を超えること。つまりどんなに優秀な人でも、ある分野で優れた結果・成績を残すためには一定レベルの時間と地道な努力が必要であることをあらわしております。

もちろん、1万時間という壁を、短い期間に集中して成し遂げる人もいれば、少しずつ積み上げていくタイプもあるにせよ、最低限の基準として1万時間は時間を費やさなければならぬという言葉が自分の中に今でも残っています。

次に一流と呼ばれる方ほど、自分自身のエゴのための発想や振る舞いを捨てていることです。具体的には自分がある程度の結果をだし、地位を得たのであれば、後進の育成に力を注いだり、社会に還元するということです。つまり自分が成長するまでに至る過程の中で支えられたきた家族や友人、パートナーをはじめとする周りの方々、ひいては社会に対する感謝と謙虚な気持ちなのだと思います。

そのことを真に感じ、行動し続けた際に何か見えるものがあるということだと思います。

まだまだ自分の場合は本に出てくるような方々には程遠いですが、人生という長い旅路の中で、生涯一流のプロと呼ばれる人になることを目指しながら、一流の方々に学びつつ、自分もいつしか感謝とお礼の気持ちを持って社会に貢献できるようになりたいと思います。

そのためには今のこの時間をどういう意識を持って生きるのか。それにつけるのかもしれないですね。



【コラム執筆】

人と人、人とコトの仲をつなぐ

仲津定宏

今回は、久しぶりに書籍の紹介と思った時に、こちらの書籍が頭に浮かんだため、ご紹介させて頂きました。

本自体は、中古でないと買えないようですが、気になる方はぜひご覧いただければと思います。

研修受講報告

管理職研修実施報告



先日とある企業で、管理職向けにMBTIを使った研修を実施させて頂きました。講師は、スポーツ心理学博士の布施努さんです。

こちらの企業では、以前より管理職向けの研修を実施しておりますが、ここ数年はMBTIを活用した形で管理職研修を実施しております。

毎年少し時間研修時間が長くなり、今回ついに休憩を除いて7時間になりました。メインのワークショップを通じて、自分と相手のタイプを理解し、仕事において活かすためのヒント、学びをたくさん提供することができたと思います。

こちらの企業はクリエイティブな方が多いせいか、ワークショップも盛り上がり、講師自身もやりやすかったようです。